

拠点名称：レジリエント健康長寿社会の実現を先導するグローバルエコシステム形成拠点

代表機関	川崎市産業振興財団	プロジェクトリーダー	一木 隆範 川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター 研究統括 /東京大学大学院工学系研究科 教授
参画機関	東京大学、京都府立医科大学、東京工業大学、東京医科歯科大学、川崎市立看護大学、量子科学技術研究開発機構、がん研究会、実験動物中央研究所、日油株式会社、ナノキャリア株式会社、花王株式会社、株式会社リアム大塚、日本メトロニック株式会社、日本電気株式会社、株式会社島津製作所、JSR株式会社、日東電工株式会社、株式会社プレイゾン・セラピューティクス、Crafton Biotechnology株式会社、BioSeeds株式会社、株式会社イクストリーム、かわさき市民放送株式会社、株式会社東急ホテルズ、株式会社DeNA川崎プレイブサunders、株式会社コールドクター、株式会社ダブリューズカンパニー、第一生命ホールディングス株式会社、株式会社きらぼし銀行、株式会社横浜銀行、総合川崎臨港病院、川崎大師訪問看護ステーション、川崎市看護協会、国立医薬品食品衛生研究所、川崎市健康安全研究所、川崎市		

プロジェクトの概要

世界に先んじて超高齢化が進む我が国では、今後医療ニーズは確実に高まり多様化する。既に医療現場では人手不足など深刻な課題に直面しており、このままでは医療システムの破綻を回避するのは難しい。さらに、昨今のCOVID-19により医療機関に過度な負担をかけないライフスタイルや社会システムへ移行する必然性が認識された。

そこで、本拠点では「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会の実現」をビジョンとして掲げ、看護に携わる人を助けるとともに、生活者の身体機能の衰えを遅らせることで、人々を健康長寿に導くための取り組みを展開する。ナノ医療イノベーションセンターを中核に、アカデミア、企業、医療関係機関、行政等の多くの参画者が、市民との対話・共感をベースに研究開発活動を行う。例えば、体調変化を呼気等で手軽に検知できる患者みまもりシステムや、薬剤が体内環境に応じて投与される自動服薬管理システム、さらに組織内の微小環境に入り込み老化を制御するナノマシンを開発し、ケアラーの負担軽減と健康寿命の延伸を目指す。

看護領域は、世界中で少子高齢化が進行する中で解決すべき課題が山積みであり、本領域で新たな産業の創出を図る。海外トップインキュベーターとの協力関係を活用し、川崎臨海部に構築されたイノベーションエコシステムをグローバルに展開する。

医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会



病に対して「しなやか」な「復元力」を有する状態を「レジリエント」と表現